

「第2次糸満市観光振興基本計画（案）」に関するパブリックコメントの実施結果

- 実施期間：令和8年2月6日（金）～令和8年3月7日（土）
- 意見提出方法：持参、ファックス、電子メール
- 提出数、意見数：提出数1件 意見数7件

番号	該当箇所	提出された意見の内容	該当ページ	意見に対する市の考え方
1	第2章 糸満市観光の現況	現状把握・分析が甘い。他市町村との比較や、観光消費額、労働生産性、賃金などの経済データへの言及が全くない。なぜ男性客が多いのか、なぜ日帰りが多いのかといった背景を丁寧に分析すべき。自然や食、アクセスの良さといったポテンシャルをもっと伝えるべき。	42-53	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご指摘の通り、客観的なデータに基づく現状分析は極めて重要です。本計画では新たに「観光消費額」を最重要指標（KPI）として位置付け、飲食・娯楽・買物別の基準値と目標値を設定しました。</li> <li>・今後は「おきなわ観光地域カルテ」等のデータ活用を継続し、毎年のPDCAサイクルの中で、他地域との比較や要因分析をさらに深め、実効性の高い施策へと反映させてまいります</li> </ul>
2	第3章 将来像と基本方針	<p>将来像（ITOMAN PRIDE）が漠然としている。現状把握が甘いため、どう強みを伸ばし課題を克服するのかの視点が欠けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データ分析に基づく現状把握</li> <li>・関連計画との整合性・糸満市の課題を踏まえた観点からの方向性を示すべき</li> </ul>	56-58	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご指摘について、将来像「ITOMAN PRIDE（糸満プライド）」を、単なるスローガンに終わらせず、具体的な施策を動かすための「共通の目標」として明確に位置づけてまいります。</li> <li>・ご意見にあります通り、本市のポテンシャルである豊かな自然や食を活かして「糸満ならではの体験プログラム」の開発を重点的に進め、ブランド力の向上を図ります（基本施策4-1等）。</li> <li>・また、アクセスの良さを最大限に活かすため、空港直行バスの利便性向上や、誰もが周遊しやすい環境づくりの強化を図ってまいります（基本施策7-4）。</li> </ul>
3	第3章 将来像と基本方針	将来像、基本方針が精神論的な記述ばかりとなっている結果、KGIも市民満足度、事業者満足度といった感覚に基づくものに終始している。これをKGI（最重要目標達成指標）にする意味が分からない。旅行消費額、経済波及効果などをKGIにする方が、市民や観光業者が糸満市の観光産業の進化・成長を感じられるのではないか。	61	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光による経済的成長を地域が実感すべきとのご指摘は、本計画が目指す「持続可能な観光地経営」において重要な視点であると認識しております。</li> <li>・本計画では、ご意見のとおり経済的成果を重視し、基本方針1（地域経営）のKPIに「観光消費額」を設定いたしました。飲食費・娯楽費・買物費ごとに現状値と目標値を定め、地域経済への貢献度を測定してまいります。</li> <li>・一方で、最重要目標（KGI）に「市民・事業者の満足度」を掲げているのは、経済的な潤いが市民の皆様の暮らしの豊かさや地域への誇り（ITOMAN PRIDE）として結実しているかを確認するためです。つまり、数値としての「経済成果（KPI）」を積み上げた結果、最終的に「地域の実感（KGI）」が向上しているか、その両面から施策を評価する考え方によるものです。</li> <li>・今後は本計画の点検（PDCAサイクル）の中で、観光消費額の向上が市民の実感にどうつながっているか検証しながら、より実効性の高い施策を推進してまいります。</li> </ul>
4	第3章 将来像と基本方針	<p>現在のKPIは満足度など感覚的な指標が多く、観光消費単価や訪問客数などの客観的指標も設定すべきではないか。</p> <p>指標は本市の観光課題に即した内容とする必要がある。計画のデータからは、日帰り客の多さや宿泊・滞在型観光地としての認知不足が課題と考えられる。</p> <p>そのため、例えば以下のような指標の設定も検討できるのではないか。</p> <p>平均宿泊数（平均泊数）</p> <p>糸満市訪問を主目的とした観光客の割合（または来訪シェア率）</p> <p>観光客アンケートの個別項目（アクセスの良さ、落ち着いた環境、アウトドア体験など）</p> <p>将来像の見直しと併せて、その実現度を適切に測る指標を設定してほしい。</p>	62	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本計画では、経済的成果を測定するため、基本方針1のKPIとして「観光消費額（飲食・娯楽・買物別）」を設定しています。</li> <li>・また、本市の課題である「日帰り客の多さ」や「滞在・周遊不足」への対応として、実体験に基づく「リピーター割合（行動実績）」を取組指標として採用し、行動実績から具体的な成果を追う体制としていきます（基本施策7-2）。</li> <li>・ご提案いただいた「平均泊数」や「来訪シェア率」、「アンケート個別項目」などは、本計画が重視する「高付加価値な滞在型観光」や「アドベンチャーツーリズム」の成果を補足する上で大変重要な視点です。これらは、毎年の進行管理（政策マネジメントシート）や、中間改訂時における分析・評価項目として活用を検討させていただきます。</li> <li>・将来像「ITOMAN PRIDE」が目指す、経済的成長が市民の誇りに繋がる「幸せの循環」が実現できているか、客観と主観の両面から厳正に検証・改善を重ねてまいります。</li> </ul>

「第2次糸満市観光振興基本計画（案）」に関するパブリックコメントの実施結果

- 実施期間：令和8年2月6日（金）～令和8年3月7日（土）
- 意見提出方法：持参、ファックス、電子メール
- 提出数、意見数：提出数1件 意見数7件

番号	該当箇所	提出された意見の内容	該当ページ	意見に対する市の考え方
5	第4章 施策と具体的な取組	データ分析や将来像の設定が適切でないため、施策体系についても抜本的な見直しが必要と考える。海人文化や平和学習は魅力あるコンテンツである一方、それらのイメージが強く、糸満の他の魅力が十分に伝わっていない可能性がある。アンケートや観光関連事業者へのヒアリングなどを通じて市場規模や成長性を把握し、これらへのリソース配分を再検討すべきである。 今後は、空港からのアクセスの良さや豊かな自然・海などの強みの認知向上に加え、マリンアクティビティの充実、歴史資源や公園・観光農園の魅力向上、いとまーる周辺の再整備、交通アクセス改善など、体系的な観光資源整備が重要と考える。	64-65	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご指摘の通り、本市が誇る「平和学習」や「海人文化」といった確固たるイメージを大切に守りつつ、一方で、豊かな自然やアクセスの良さなど、まだ十分に伝わりきっていない多彩な魅力をいかに掛け合わせ、両立させていくかが重要な課題であると認識しております。</li> <li>・本計画では、観光関連事業者の皆様からの現場の声や、観光客アンケート等の客観的データを踏まえ、最重要指標（KPI）として「観光消費額（飲食・娯楽・買物別）」を新たに設定し、経済的効果を重視した観光地経営への転換を図ってまいります。</li> <li>・具体的には、空港からのアクセスの良さや豊かな自然環境を活かした体験型観光の充実、周遊を促す交通整備などを施策に位置付け、観光資源の磨き上げと認知向上を進めてまいります。</li> <li>・今後も、現場の皆様との対話や本計画の点検（PDCAサイクル）を通じ、来訪動向やニーズを的確に把握しながら、「伝統」と「新しさ」が共存する実効性の高い観光施策を推進してまいります。</li> </ul>
6	第4章 施策と具体的な取組	具志川城址やくくる糸満、大型公園などの観光資源が十分に活かされていない。体系的な整備と相互のアクセス改善を行い、平和や海人以外の新たな市の観光イメージ（マリンアクティビティ等）をPRすべき。	66-84	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご指摘の通り、本市が誇る平和学習や海人文化に並ぶ新たな魅力の柱として、多様な地域資源を最大限に活用し、滞在の満足度を高めていくことは極めて重要であると認識しております。</li> <li>・本計画では、南山城跡などの歴史遺産の活用（基本施策2-2）をはじめ、公園や海辺環境の整備（基本施策3-1）、さらには自然の中での感動体験を提供するアドベンチャーツーリズムの推進（基本施策4-1）などを盛り込んでおります。</li> <li>・また、観光協会の体制強化（基本施策7-1）を通じて、各スポットを点から線へとつなぐ体系的なプロモーションを展開し、マリンアクティビティ等を含めた本市の新しい観光イメージの確立と、認知向上に努めてまいります。</li> </ul>
7	第4章 施策と具体的な取組	公共交通へのアクセシビリティ強化だけでなく、バス路線の駐車場の工夫や増便、駐車場の確保など、具体的な改善に取り組むべき。	76、81	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通の利便性向上は、市内での滞在・周遊を促進し、地域経済を活性化させる上で不可欠な要素であると認識しております。</li> <li>・本計画では、「糸満市地域公共交通計画」と密接に連携しながら、観光客と市民の皆様が双方が利用しやすい環境づくりを進めてまいります。</li> <li>・具体的な取組として、観光バスの一時待機場所の確保やデジタルを活用した運行情報の多言語発信など（基本施策7-4）を盛り込みました。今後も現場のニーズを把握し、誰もが円滑に移動できる環境整備を推進してまいります。</li> </ul>